

令和6年度 自己評価書

学校園名 附属大泉小学校

1 学校経営計画
別紙のとおり。

2 自己評価

領 域	重点目標・具体的取組	達成状況・成果と課題	評価	今後の改善方策	学校関係者評価を踏まえた今後の改善方策
学校運営	<重点目標> (1) いじめ防止対策の充実 「いじめを許さない学校づくり」を掲げ学校全体挙げて取り組む。 - いじめの早期発見に勤め、組織的対応をより強化する。 →いじめ防止基本方針の改訂 - 人権学習の年間実施。 - 児童向け外部講師のいじめ防止授業 - 教員研修の充実。学級経営・いじめ・教育相談の研修会実施（年間2回） - 教育支援員の体制づくりを行う。 (2) PYPと学習指導要領との共存 - 研究発表会の開催（R7年1月） (3) 学校運営改革 - 通学区域の見直し（住所化） - 校務システムの活用 - ホームページによる外部への発信充実 ……更新回数70回以上 - 学級編成替え（クラス替え）を毎年行う体制づくり。R7年度から実施。 - 授業参観（対面）を年2回実施する。 …6月と2月 - 給食試食会開催。1年生及びコロナ禍で未実施の学年保護者にも行う。 - SSSの活用による働き方改革 - 給食調理員の業務委託化に伴う、給食運営の安定	- いじめ防止対策として、再発防止策を校内の教員でワーキンググループを立てて検討し、できるところから実施をした。 - 人権学習を年間で10回実施できた。 - 定期的（原則週1回）いじめ防止対策委員会をSCも入って開催し、対応した。 - 弁護士の方やSNSの専門家の方を招いてのいじめ防止の特別授業を実施できた。 - 組織的対応がより機能的になるように、一覧表報告で情報共有し継続対応した。 - 支援員を増員して児童への個別の対応を充実することができた。 - PYP探究プログラムを開発し実践した。概念的・理解への理解が深まっている。 - IBワークショップに新任教諭が参加して研修をうけることができた。 - 学校コミュニティへの理解を広げる活動として、3者面談（児童、保護者、教員）を実施できた。 - 通学区域の改定を行うことができた。 - Web連絡システムによる保護者への連絡は頻繁になり、アンケートもできた。 - 学校HPの更新が目標回数である70回以上を達成できた。 - SSSの活用も行った - 給食調理業務を業務委託は、安定して行うことができた。	C	- 今後も、いじめ防止対策を継続して強化し、学校全体で教職員一丸となって取り組む。 - 再発防止策を取り入れ、いじめ防止基本方針を改定する。 - 人権教育の年間教育計画を引き続き作成して取り組む。 - 生活指導部と教育相談部といじめ防止対策委員会との機能的連携をより強化する。 - 子どもたちが相談しやすい環境作りに取り組む。例えば、児童全員面談や匿名通報システムについても検討をしていく。 - PYPの改訂に伴い、対応したPOIを構築していく。 - IB校で得られた知見を、公立学校など一条校に発信していくようにする。また、これからPYP導入を考えている学校へのアドバイスなど拠点校としての役割も果たしていけるようにする。また、国際中等と連携して大泉地区の発展につながる協議をしていく。 - 国際学級の在り方について、見直すことも検討していく時期になってきていると考えている	- 学校行事の復活を行いながら、改革を進めたことは、関係者からも学校評価アンケートでも高い評価をいただいている。 - いじめ対応で、学校が認知後どのような流れで対応するかについて、子どもを不安にさせないようなやり方を求める声をいただいた。これまで保護者には流れを説明しているが、児童にはその事案毎に対応しており、児童全体に流れを話すことはしていなかった。今後、児童へいじめ対応の流れについても発達段階に応じて丁寧に説明していくようにする。 - 本校がIB認定を受けたことから、教育活動面、研究面、進学面でも、国際中等との連携を更に深める期待の声がある。 - 学校評議委員に、いじめの専門の方に入っていただく依頼をする。 - 教員の働き方も、今後も推進していく。

	・PTA保護者の協力を得て、下校時の見守り体制を強化する。	・PTA保護者による下校パトロールを行うことができた。			
教育活動	<教育活動に関わる重点目標> ○「きれいな言葉・きれいな学校」「わかりあう喜び・わかちあう豊かさ」を合い言葉に、全ての教育活動の中で児童の自己肯定感や相互肯定感を育み、豊かな心を育成する。 ○人権教育の取り組み 毎月、人権教育デーを設け、全校で学ぶ機会を設け、年間を通して継続的に人権教育が行う体制を整える。また、専門の方を招いての特別授業も行う。いじめに関する道徳科の授業を、全学年毎学期、1回以上行うようにする。 ○下校時の安全・マナー指導強化。特に下学年（1～3年） ○学年経営・学級経営・授業などすべての教育活動において、「きれいな言葉」「きれいな学校」「全員が居心地のよい学校・学級」を指導の共通方針として掲げ自己肯定感と相互肯定感を育てていく。 ○行事や授業の中で、心の教育を行うように価値付けを大切にする。 ○教科の枠をこえた探究の学びを充実させる。セントラルアイディアとATLスキルを設定して取り組む。 ○各学年年間6単元ある探究ユニットを、それぞれしっかり実践する。 ○情報モラル教育を推進する。	○「きれいな言葉」は学校の中に浸透してきている。「きれいな学校」も児童も教員も意識して取り組めた。全校清掃も行い、保護者評価で向上した。継続する。 ○4～6年移動教室・臨海学校は、コロナ前の活動に戻し、問題なく実施できた。 ○人権教育月間を設けて教育活動を行った。具体的には、いじめにつながりそうな具体的事案について児童が考える機会を複数回継続してもらったり、専門家の方の授業を受けたりして取り組んだ。 ○探究学習では、各学年6つの探究ユニットに取り組み、プランナーに記録し、研究紀要としてまとめている。 ○各探究ユニットのプランナーが36単元分しっかりそろえられるように、記録も残すことができた。 ○探究ユニット作りについて、全教員が研究会を通して学ぶことができ、概念的理解をめざす教科の枠をこえた学びについて、単元開発力が向上してきている。 ○児童も、探究学習がとても好きで、意欲的に学習に取り組む様子がみられている。 ○全国学力学習状況調査でも、学力は落ちていない。向上している。	B	・本校の行学一体の精神である、体験的に学ぶこと、協働的に学ぶこと、探究的に学ぶこと、行事を通して育てることを大事にする教育活動を継続していく。 ・PYPでは、6年のExhibitionについての取組について、今後は取り組んでいく必要がある。 ・PYP改訂が行われており、その対応をしていかなければならない。特に探究の対象（ディスクリプター）については、改訂に対応しつつバランスのとれたPOIを構築する必要がある。 ・本校の特色を活かした探究ユニットを開発することで、PYPと学習指導要領との両立した教育課程の構築を創り上げていく必要がある。 ・探究プログラムだけでなく、教科学習においても、探究的な学びを充実させていくようにする。 ・3年後に評価訪問を学校行事と探究プログラムとの関連についても、より実効性と継続性のあるPOI作成を進めていく。 ・いじめなどの児童間トラブルについて、未然防止や組織的対応について教員間研修などを進めていくようにする。	・教育活動で教師が前にですぎていないかのご指摘があった。失敗から子どもが立ち上がるところ、どうしたらいいかを考えることが大切で、それが大泉が大切にしてきたこと、そのことが弱くなっている心配、とのご指摘である。体験から学ぶ教育と教師が児童を支援する姿勢での教育を今後も継続充実させていく。 ・家庭教育力に差があり、本校の教育課程で人間力や実践行動力を育成している事への評価をいただいている。本校の特色ある教育活動は保護者からも評価が高く今後も大切にしていける。 ・探究プログラムで、教科を少しスリムにして探究をしているが、全国学力調査で、学力はむしろ向上していること、また、無回答率が低いことについて高く評価をいただいた。 ・英語教育の更なる充実を期待したいという声もいただいている。 ・タブレットやソフトの活用を検討。全く日本語が話せない児童への指導の充実ができるよう音声教材の利活用や開発を探索 ・一方デジタル化しすぎることへの不安の声もいただいた。バランスをとっていくようにする。

研究活動	＜研究活動に関わる具体的な取組＞ ・ I B ワールドスクール認定校として2年目となる。本年度は、一つ一つの探究ユニットを充実させると共に、全体としての探究プログラム（P O I）も、整備していくことが重点である。 ・ 概念的な学びについても研鑽していく ・ 年度末に研究発表会を行って、IB拠点校として教科の枠を越えた学びについて提案を発信する。PYPの取組で公立校に役立つエッセンスも発信する。 ・ 全国公開研究発表会の開催。（令和7年1月27日（金）実施） ・ 全国公開研究発表会でPYPを広め、拠点校としての役割を果たす。 ・ 探究プログラムにおける教科学習のあり方を研究し、PYPと学習指導要領とが両立する教育課程をめざす。公立学校で教科の枠をこえた探究の学習を実践する際に役立つ発信をする。 ・ 校内教室の I B 掲示環境整備・充実。 ・ IB校への参観。年間で3校以上。	・ 各学年で6つの探究ユニットを、教員間で協働的に開発しながら実践を積み重ねることができた。 ・ 概念的な学びについて、研究会を通じて各教員の理解も深まってきている。 ・ 校内研究会を、校外の方にも公開して、参加できる形で何回か取り組んでいる。 ・ 1月末に研究発表会をオンラインで実施した。充実した協議会ができたが、参加者がもう少し増えるような工夫もしていきたい。 ・ PYP認定を受けた者の課題点も指摘されている。5年後の評価訪問までに少しずつ課題について取り組んでいく。 ・ PYPの教育効果についてエビデンスをとるようにする。 ・ 授業研修を充実させる ・ 他のIB校への参観はあまりできなかった	B	・ PYPの改訂が行われており、その対応をしていく。特に探究の対象（ディスクリプター）については、改訂対応しつつバランスのとれたPOIを構築する必要がある。 ・ PYP探究プログラムで、概念的な学びを充実させること、ATLスキルについての検討などの課題の一つ一つ取り組み、より質の高い教科の枠を超えた学びを実践する。教科の探究的な学びについても研究していく。 ・ 探究ユニット一つ一つを協働的に開発・実践していくとともに、学校全体として探究プログラム（P O I）の完成度も向上させていくようにする。 ・ I B から評価やコミュニティへの説明など、いくつか指摘された課題について取り組んでいく ・ PYPの拠点校・モデル校として存在価値を高める。	・ 研究発表会で、文部科学省へのアピールをしていくことへのアドバイスをいただいております、拠点校として貢献していけるようにしていく。 ・ GIGAスクール構想について、活性化について、よりICT活用について推進していく。デジタル教材やドリルの活用、サイネージ化を推進する。 ・ 研究発表会での参観者が増えるようにそろそろ教科学習の発表も取り入れることについて示唆をいただいている。 ・ IBを意識した多様な学習形態の導入や教育環境改善の検討 ・ IB教育への保護者への丁寧な説明も今後重要になってくる ・ I B 研究で、公立学校に役立つ部分をしっかり発信するようにしていく。 ・ 6年エキシビジョンのあり方について検討
学生の教育・支援活動	◎学生の教科・教材研究力の向上 ○基礎実習における、教科毎の研究授業・協議会の実施。 ○授業の基礎的技量を高める講話の実施 ○実習中の教員の会議の削減。 実習生への指導時間の確保 ○教員のFD研修の実施 実習指導をするための教員研修を開催し、校内教員で学び合う場を設ける 学級経営力・授業基礎技術だけでなく、教材研究力向上もめざし、質の高い教育実習を、教員の働き方にも配慮しながら実施できる体制にする。	・ 研究授業は、クラス毎に取り組む形式とし、実習生同士が学び合う機会をもつ ・ 期間中は会議を入れないように年間予定を組み、実習の充実に努めた。 ・ 実習生指導が初めての教員に対し、実習指導研修を開催し、校内教員で学び合う場（FD研修）を設けた。 ・ 実習期間中は7校時をカットし、実習生指導で退勤時刻が遅くならないようにした。また、実習生にも空き時間をもうけるようにした。 ・ 実習生の、研究授業となる教科が、やや国語や算数に偏りがちにはなった。	B	・ 充実した質の高い実習にするため、授業後の反省会・協議会やなど、必要な時間は確保する ・ オリエンテーションの持ち方や実習前のメールでの担当教員とのやりとりについて、よりよい方法を実施していく。 ・ 実習生の事前指導の在り方については、大学との連携が更に必要である。 ・ 働き方改革と関わって、実習生の退勤時間の設定をどうするか課題である。	・ 卒業生や他大学からの実習も積極的に受け入れるようにしていく。 ・ 教育実習は、児童も楽しみにしているところもある。よい実習が展開できるように期待している。

社会貢献活動	＜社会貢献活動に関わる具体的取組＞ ・地域（練馬区、東京都等）の公立小学校の教育実践研究には、教員全員が可能な限り参加し、共に学んだり、貢献できるように努め、地域の方との連携、社会体育活動への貢献、学校コミュニティを広げる活動を大切にしてい ・学校年間行事予定に練馬区教育委員会研究会予定を組んで、教員は可能な限り、積極的な参加を継続する。（最低でも年間2回参加） ・練馬区小学校教育研究会で、本校で研究授業を受けたり、委員メンバーとして事前協議会、当日運営にも協力する。 ・各教科の自主的な研究・研修セミナー等の開催を促進する。 ・地域避難所としての機能向上について国際中等とも連携して進める。 ・地域社会体育の活動、地域サークル活動（保護者の同好会、子どもの同好会を含む）にも施設を貸し出すなどの協力をしていく。（同好会）	・地域（練馬区）教育会全体研究会には、全教員が参加できる体制を組み、ほぼ全教員が参加した。 ・練馬区小学校教育会の研究授業を、本年度は受け入れて実践を行うことができなかったが、来年度は実施する見込がある。（社会科、算数科）。 ・練馬区の教員研修の中に本校研究をいれることは、本年度は行わなかった。 ・海外の日本人学校の外国人児童（UAEアブダビ日本人学校）短期体験を受け入れることができた。 ・公立小学校教員のための算数授業研究会、道徳研究会、英語研究会、体育研究会を対面で開催した。	B	・公立小学校とも連携した取り組みを進め、更に連携を密にしていくように推進していく。本校を会場としていた地域の研究会を積極的に誘致していく。 ・大学、地域の教育委員会、各学校とのさらなる連携研究の推進 ・国際学校として、海外の児童及び教職員の参観・来校を積極的に受入れる。	・一時避難所については、地域の方の要望が強くでてきているので、本学（大学）とで、規定を作っていくことが重要と思われる。 ○練馬区の教員研修の中に、本校の研究や示範授業をいれていただく交渉をする。
--------	---	--	---	---	--

3 その他特記事項

4 自己評価委員会委員、開催日

① 令和7年 1月30日（木）各部会の学校評価

② 令和7年 2月 3日（月）自己評価委員会

杉森校長、細井副校長、松井主幹教諭、学年主任（久保教諭、岩岡教諭、上田教諭、関根教諭、後藤教諭、吉原教諭、田代教諭）

③ 令和7年 2月 4日（火）教員会

※学校関係者評価委員会… 令和7年2月18日 校長、副校長、主幹、学校評議委員5名、保護者代表2名

